

平成27・28年度国立教育政策研究所研究指定
教育課程研究指定校事業（伝統文化教育）

【学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成，
指導方法等の工夫改善に関する実践研究】

実践報告書



北海道指定有形文化財
[松前屏風]



北海道松前高等学校

目 次

巻頭言	北海道松前高等学校長 佐藤 岳	P1
I 研究指定校の概要		P2
II 研究主題等について		P2
III 研究成果の要点		P4
IV 総合的な学習の時間の「松前の学習」・学校設定科目【松前学Ⅰ・Ⅱ】シラバス		P5・6
V 平成27年度 国立教育政策研究所 教育課程研究センター関係指定事業研究協議会 発表概要		P7
VI 平成28年度 国立教育政策研究所 教育課程研究センター関係指定事業研究協議会 発表概要		P12
VII 成果のまとめ（研究成果・課題・今後の展望等）		P15



北海道松前高等学校長 佐藤 岳

平成27年度・28年度の2年間、国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業【教育課程研究指定校事業(伝統文化教育)】の研究指定校となり、学校全体で取り組む研究課題は「学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究」「(1)学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究」です。目的及び内容につきましては、「学校の教育活動全体の取組により、児童生徒に伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため、各教科等における伝統的な言語文化、歌唱及び和楽器、行事食・郷土食、産業、和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導の連携を図りつつ、体系的な取組による指導効果の向上、学校全体での定着を図る研究を行う」ことです。これらの研究課題及び目的の下、研究主題を「『総合的な学習の時間』で行う『松前の学習』を軸として各教科・科目等が連携し、地域の伝統文化に関する教育に学校全体で組織的に取り組み、地域の実態に即した教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善に資する実践研究」として取り組んできました。さらに、教科横断的な学習や地域との連携を充実し、教材の工夫・開発を進め、生徒の学習意欲や表現力の一層の向上を図ってきました。ここに、2年間の具体的な実践と研究の成果をまとめましたのでご報告いたします。

さて、皆様もご承知の通り松前町は松前藩の城下町として発展し、北海道唯一の「城のある町」として知られています。北海道屈指の伝統と歴史に溢れた町に生まれ育った本校生徒に、松前町に対する誇りと自信を持たせるために町内小学校及び中学校と連携し「ふるさと学習」を推進しています。

本研究1年目の平成27年度には、指導教員による道外教育機関・施設の視察研修を行い、改めて松前の伝統文化を確認し生徒に還元できました。特に「松前祇園囃子」の研究を中心に郷土芸能のすばらしさに直接触れる機会を設けられたことは今後の伝承に大きく前進できたものと考えます。また2年目の今年度は、道外への視察研修を継続し、さらなる貴重な資料等の情報収集ができました。生徒達は「松前祇園囃子」の習得・発表を含め、紙芝居や郷土料理、木工体験等自らの目で、耳で、鼻で、口で、そして手で実感しました。研究指定は今年度で終了いたしますが、今後も伝統文化教育を継続・発展させて参りたいと考えておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

最後に、2年間にわたり御指導、御助言をいただいた国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の村瀬正幸先生、北海道教育委員会の皆様、本研究事業関係の皆様方、並びに、多大な御協力と御支援をいただいた松前町教育委員会はじめ松前町の皆様に改めて御礼申し上げ、発刊に当たっての御挨拶といたします。

なお、この報告書を御高覧いただき、御意見御感想を賜れば幸甚に存じます。

I 研究指定校の概要

1 生徒数（平成29年2月1日現在）

本校教員数17名 本研究に関わる教員5名

課程	学科	1年		2年		3年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	普通科	1	23	2	45	2	44	5	112

2 学校・地域の特色及び生徒の実態

本校は、北海道の渡島半島の最南端に位置する、全日制普通科5クラス（1年生のみ1クラス）の小規模校であり、「君の可能性を引き出し、君の夢を叶える高校」を目標に「松前学」「国際教育」「書道教育」を3つの柱とし、特色ある教育を目指している。松前町は、北海道唯一の城下町であり、北の小京都とも言われ、特に北前船を通しての交易で様々な伝統や文化が生まれ、蝦夷地発祥の地として賑わいを見せた地域である。

生徒数は現在3学年44名、2学年45名、1学年23名、計112名である。地域や小中学校との結びつきも密接であり、本校の在校生はほとんどが松前町からの進学者である。

平成27年度から、【伝統文化教育】に関する研究指定校として、「学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究」という研究課題のもと、研究と実践を通して生徒の変容過程を以下にまとめ報告する。

3 研究に関わった教科と科目（教科横断的授業）

教科 □総合的な学習の時間における【松前の学習】【学校設定科目【松前学Ⅰ・Ⅱ】

科目 □書道 □地歴・公民 □理科 □家庭科

II 研究主題等について

1 研究課題

学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

2 研究主題

学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

3 研究主題設定のねらい

本校がこれまで「総合的な学習の時間」で取り組んできた「松前の学習」では、生徒が地域の歴史や産業を理解するという点で成果が見られているものの、地域の伝統文化に対する生徒の関心は低く、伝統や文化を尊重し郷土を愛する心を育む授業の実践に課題があった。これらの成果と課題を踏まえ、この研究では、学校全体で組織的に取り組める教育課程の工夫・改善の手立てとして、異校種間や他教科との連携を促す縦断的・横断的な取組を取り入れることとした。これらを効果的に活用することで深い学びの場を提供し、質の高い実践を目指した。

本研究の主題は次の通りである。

- (1) 地理歴史科と専門家（行政・大学）との連携を取りながら、歴史的背景を踏まえて指導するなど、伝統文化を多面的に把握させ、その価値を理解させる。
- (2) 伝統文化の担い手としてこれまで生活してきた地域住民と生徒との多様な交流の機会を設け、生徒の地域の伝統文化に対する見方・考え方を再考させ、生徒の生涯にわたって郷土を尊重していく態度形成を図る。
- (3) 伝統文化の学びから、生きた知識と技能を将来どのように役立てることが可能かを考えさせ、伝統文化が私達の自己アイデンティティーの形成に繋がっていることを理解させ、他地域の伝統や文化へも寛容な心を養わせる。

4 研究体制

「総合的な学習の時間」で行う「松前の学習」と選択科目「松前学Ⅰ」、「松前学Ⅱ」（学校設定科目）とで本研究を展開している。また、地域の学芸員や専門家と連携し、「松前の学習」の一層の充実を図る体制を整えた。

○校長 佐藤 岳 ○教頭 小島 政 裕

○教諭 芸術科(書道) 天満谷 貴之 地歴・公民科 佐藤 真 智

地歴・公民科 大野 恭 弘 理科 花 光 隆太郎 家庭科 山 田 富美子

5 2年間の主な取組

	日 程	研 修 先
平成 27 年度	平成 27 年	6月 上旬 松前町教育委員会 学芸員からの教授
	7月 2日 滋賀大学へ視察研修	
	7月 3日 長浜曳山博物館・大津祭曳山展示館・近江八幡市役所視察研修	
	7月 4日 池坊学園・京都文化博物館・近江八幡市視察研修	
	9月 9日 全道公開授業(調査官来校)	
	11月 19日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)	
	12月 18日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)	
	1月 25日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)	
	平成 28 年	2月 16日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)
	3月 15日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)	
平成 28 年度	平成 28 年	4月 11日 藩屋敷・松前城解説(松前町観光協会)
	5月 10日 二オの採集(農漁村改善グループ)	
	5月 25日 松前祇園ばやし体験(郷土芸能保存会)	
	6月 9日 紙芝居体験(語り部)	
	6月 13日 松前町教育委員会 学芸員からの教授	
	6月 29日 伊達市 梁川町 視察研修(伊達市教育委員会)	
	6月 30日 東北学院大学 榎森 進 名誉教授 視察研修	
	7月 1日 青森県 松前街道 視察研修	
	7月 19日 小学校交流授業(松前町立小島小学校)	
	9月 14日 全道公開授業(調査官来校)	
	10月 22日 木工体験(西部森林室)	
	11月 2日 いかめしづくり(農漁村改善グループ)	
	12月 16日 小学校交流授業(松前町立大島小学校)	
	12月 20日 小学校交流授業(松前町立松城小学校)	
	平成 29 年	1月 18日 くじら汁(農漁村改善グループ)

6 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 研究内容

伝統文化に対する価値を見出し、生涯にわたって豊かな心を育成するための指導と評価に焦点化して研究を行なった。

- ・他教科や地域と連携を図り、伝統文化についての認識と理解をより一層深化させる。
- ・継承活動を継続的に実践することで、知識・技能の向上をはじめ参画意識を深める。
- ・評価方法の工夫・改善を図り、生徒の変容を把握し、態度形成の育成と充実を図る。

イ 研究方法

- ・「総合的な学習の時間」で行なう「松前の学習」及び「松前学Ⅰ」「松前学Ⅱ」(学校設定科目)の担当者と地理歴史科・公民科・理科・家庭科・芸術科(書道)との連携体制を構築し、指導内容や評価方法を検討していく。
- ・【紙芝居】【松前祇園ばやし】【松前祇園ばやしのプレゼン】にカテゴリーを設定し、発表内容について個人で精査し、それをグループ学習で共有させ、発表に反映させることで継承活動への参画意識を向上させる。
- ・研究の充実性を図るため、学習の目的を教員と生徒が共通理解できるよう、目指す生徒像に向けて学習すべき内容を精査する。

ウ 工夫点

- ・時系列により生徒の態度変容を見取り、伝統文化の価値を生徒どのように受け止めているか、継承活動を土台とすることで参画意識がどのように変化しているか、その意義や意味を生徒がどのように把握しているかなど、定点的な評価を行い、生徒の変容を掴んだ。
- ・生徒の活動の様子や取組の変容について指導者側でその都度協議し、利用するワークシートの改善を進めた。まとめにおいては、地域の伝統文化を継承する活動を継続的に実施することを通して、伝統文化が生活と密接に関わっていることや、身に付けた知識や技能をどのように活用していくことができるかを考えさせる場面を設けた。

(2)具体的な研究活動

- ・歴史的背景について、地理歴史・公民科・理科・家庭科・芸術科(書道)の教員、地域の学芸員や専門家等で研究を行い、地域にある伝統文化について、理解と認識力を向上させるための指導研究を行なう。
- ・生徒の伝統文化に対する理解や態度についての変容を的確に把握するため、記述式のワークシートを用いた評価を実施し、時系列で段階的な評価方法の工夫・改善を行なう。
- ・伝統文化に対する理解を深めるため、地域のゲストティーチャーを招き継承活動を継続的に体験する。さらに、【紙芝居】【松前祇園ばやし】【松前祇園ばやしのプレゼン】の 카테고리を設定し、グループごとに伝統文化に関する知識・技能を習得し、歴史的背景を調べ、小学生に発表・継承する活動を実施する。
- ・地域の学芸員だけでなく、松前と密接な関わりを持つ滋賀県近江八幡市・滋賀大学・福島県伊達市梁川町・東北学院大学等を視察・研修し、専門家との連携体制の構築と指導内容の見直しを図る。

Ⅲ 研究成果の要点

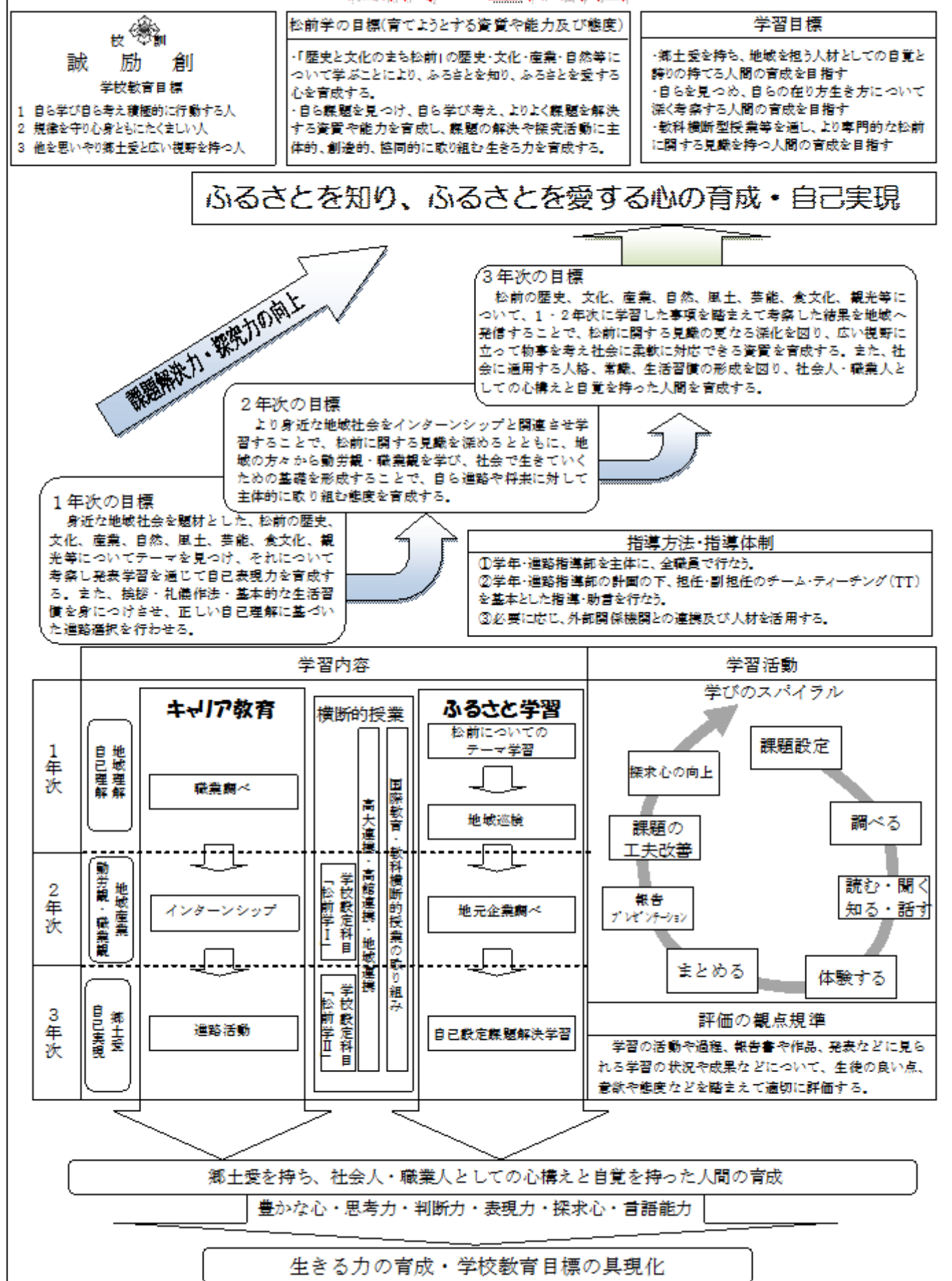
平成27年度	1 教科横断型の授業を体系的に行い、時系列で歴史的分野、先人達の知恵、地域が持つ風土等の理解を積み重ね伝統文化に対する価値を見いだすことができた。 2 地域が持つ歴史的背景を段階的に教授し、伝統文化に対する認識の変容を把握することができた。 3 言語活動の充実を図るため、グループで主体的な発表活動を行い、他グループと共同で共通のテーマのもと検討を重ねることで、学習への見通しや、学びの継続性を意識付けることができた。 4 自己評価シート・ワークシートを効果的に活用したことで、生徒、に対する適切な評価をすることができた。また、生徒の実現状況を把握することで、授業改善を行うことができた。 5 教職員全体で研究を共有できたことで、様々なアドバイスや協力を得ることができた。 6 インタビュー活動を通して、地域の方々が願っていることと、生徒達が導き出した伝統文化の在り方が合致したことで、地域の方々から「松前祇園ばやし」の演奏を学ぶ機会を実現することができた。
平成28年度	1 伝統文化の学びの方向性を、グループ協議を通して導き出すことができた。 2 小学校を対象とし、地域の伝統文化を披露することができた。 3 各教科横断の授業を通して、幅広い視野で学びを深めることができた。 4 段階的な評価を取り入れ、学びの過程において、生徒の変容過程を見ることができた。 5 伝統文化の学びを通して、自己の生き方や将来の自分を見据えた捉え方が言葉を通して見ることができた。 6 地域にある伝統文化に対する敬意ある気持ちが育ち、寛容な心を持った態度が形成された。

2年間の総合成果として

- 小中学校での学習を受け継ぎ、「総合的な学習の時間」で行なう「松前の学習」及び「松前学Ⅰ」「松前学Ⅱ」(学校設定科目)の担当者と地理歴史科・公民科・理科・家庭科・芸術科(書道)との連携体制の構築を図ることのできる教育課程を編成することにより、地域と共に伝統文化の継承活動に生徒が参与しながら幅広く学習内容を展開させることができた。
- 松前の伝統文化の学習を通して、伝統文化に対する価値を感受した生徒の発言や文章等が段階を追って、随所に見られるようになった。また、伝統文化が自分たちの生活や人生に深く参与していることを認識し、自己のアイデンティティを捉え直している生徒の様子や、伝統文化に対する尊敬の志を抱く態度が養われた。
- 本研究を通して、生徒の思考力・判断力・表現力の向上について学校全体で実践することができたとともに、生きた知識を効果的に活用し、深い学びに向かう態度を身に付けさせることができた。さらに、伝統文化を守ってきた先人たちの思いと共に生きていることの意義を理解し、他地域においても同様の見方・考え方をもって伝統文化の良さを見出し、尊重できる態度を育むことができた。

IV 総合的な学習の時間の「松前の学習」・学校設定科目【松前学Ⅰ・Ⅱ】シラバス

松前学の全体計画



松前学Ⅰ

学期	月	単元名	学習内容・活動	到達目標	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
前期	4	『自分の住んでいる地域・世界をどれだけ知っているか』 ※プレゼンテーション発表	ア 松前町、北海道、日本、世界についての基礎的事項や地図帳の使用法を確認していく。 ア 自分が住んでいる松前町について、グループで調べ学習を行い、プレゼンテーションを行う。	ア 自分たちが暮らす松前町や北海道、日本についての基本的事項を理解し、松前町の課題について考察するとともに、松前町の未来を展望する。	ア 松前町の各地区はもとより、北海道や日本、世界が抱える様々な課題点について、多面的・多角的に追究・考察している。	ア 各種資料をうまく活用しながら、各地域の特徴や文化などについて、適切に選択・活用し、まとめたたり発表したりしている。	ア 各地域における自然環境や民衆の生活・文化を多面的・多角的に理解するとともに、それらを地理的に考察する視点や方法を理解している。	
	5	日本列島の成立と蝦夷地 古代の松前 北海道の旧石器時代	ア 人間の起源や、大陸の変遷などの学習を通して、日本列島の成立や蝦夷地の成立について学習し、古代北海道の旧石器時代	ア 古代の松前について、打製石器と磨製石器の比較を通して、旧石器時代の人々の生活の展開について考察し、歴史や文化について理解する。	ア 先史時代・旧石器時代における松前の人々の生活や社会、文化に対する関心と課題意識を高め、追究している。	ア 先史時代・旧石器時代における松前の人々の生活や社会、文化に対して、多面的・多角的に追究・考察している。	ア 各種資料をうまく活用しながら、古代の松前に関する文化や特徴などを適切に活用し、まとめたたり発表したりしている。	ア 先史時代から縄文時代にかけての人々の生活や社会・文化を多面的・多角的に理解し、それらの知識を身に付けている。
	6	縄文文化とオホーツク文化 安東氏と松前 中世の松前 コシャマインの蜂起 近世日本と松前	ア 古代・中世の松前に関する資料の考察を通して、当時の生活様式やアイヌと和人との争い、交易などを踏まえたうえで北海道についての地理的特色と歴史的背景について学習する。	ア 古代・中世の松前について、縄文土器と縄文土器の比較を通して、古代・中世の松前の歴史や文化について理解する。 イ 中世における交易に関して、資料を読みとることでの性質について理解する。	ア 縄文時代から中世にかけての人々の生活や社会、文化に対する関心と課題意識を高め、追究している。 イ コシャマインの蜂起など人と人との関係について課題意識を高め、追究している。	ア 縄文時代から中世にかけての人々の生活や社会、文化に対して、多面的・多角的に追究・考察している。	ア 各種資料をうまく活用しながら、縄文時代から中世の松前に関する文化や特徴などを適切に活用し、まとめたたり発表したりしている。	ア 縄文時代から中世にかけての人々の生活や社会・文化を多面的・多角的に理解し、それらの知識を身に付けている。
	7	松前藩の成立 松前・福山館の築城 ※松前城見学	ア 江戸時代の日本と、松前との関わりを、資料の考察を通じて学習し、人とアイヌとの関わりについての理解を深める。	ア 江戸時代において、松前氏がどのように発展していったのかを、資料などを読みとり理解する。また、発展の裏側にある争いなどについても学び、物事には様々な側面があることも理解する。	ア 松前の生活文化や特産物に興味を持ち、文化遺産を通じて積極的に資料を読みとろうとしている。	ア 郷土に関わる文化遺産を発見し、改めて松前の特産な歴史や社会・文化について多面的・多角的に追究している。	ア 松前の歴史や文化に関する諸資料を調査・収集し、有用な情報を適切に選択し読み取りまとめている。	ア 松前の文化や特産の歴史的背景を踏まえて理解している。
	8	「松前の歴史と先人たちの截習」 ※インタビュー調査	現代の松前における伝統芸能に焦点を当てて松前の歴史や文化についての理解を深める。	ア 松前の歴史や文化、産業などを改めて学ぶことで郷土を知り、生涯にわたって郷土を愛する心や態度を養う。また、松前にある伝統文化を理解し、地元に関する学習を学び、それらを自分の生活に活用できる能力を育成する。	ア 地域の歴史や文化から課題を発見し、町の現状と関連付けて総合的に考察することができ、 イ 松前の伝統文化についての認識を深め、町の現状を踏まえて判断のもと、自己の考えを適切に表現することができる。 ウ 松前の歴史や文化についての基本的な事項を総合的に理解し、説明することができる。	ア 地域の町々へのインタビューを通して、松前の歴史や文化に関する諸資料を主体的に調査・収集することができる。 イ 自らが収集した諸資料から有用な情報を適切に選択し、読みとることができる。 ウ 松前に残る伝統芸能に関する諸資料を活用し、プレゼンテーションを行うことができる。	ア 地域の町々へのインタビューを通して、松前の歴史や文化に関する諸資料を主体的に調査・収集することができる。 イ 地域の町々へのインタビューを通して、松前の伝統文化についての基本的な事項を近江・京都と関連付けて理解し、その知識を身に付けることができる。	
	9	※プレゼンテーション発表						
後期	10	プロジェクト	ア 松前に残る伝統文化に触れ、その技術の継承するとともに、次世代へと伝えていく手段や方法を考えることにより、伝統文化保存の精神を養う。	ア 松前に残る伝統芸能に直接触れ触し、伝統文化を継承することの大切さや意義を理解する。	ア 松前の伝統文化に興味を持ち、それらを保存のために意欲的に行動すること。歴史・文化的価値を誇り、身に着けること。松前の郷土芸能保存会の方々の働きを、積極的にその魅力を伝える。松前の伝統的な祭りや行事に積極的に参加し、その魅力を伝える。松前の郷土芸能保存会の方々の働きを、積極的にその魅力を伝える。	ア 松前の伝統文化の継承・発展自分たちがどのように関わっていくことができるのかについて考え、自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。 イ 松前の伝統的な祭りや行事に積極的に参加し、その魅力を伝える。自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。	ア 松前の伝統文化の継承・発展自分たちがどのように関わっていくことができるのかについて考え、自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。 イ 松前の伝統的な祭りや行事に積極的に参加し、その魅力を伝える。自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。	ア 松前の伝統文化の継承・発展自分たちがどのように関わっていくことができるのかについて考え、自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。 イ 松前の伝統的な祭りや行事に積極的に参加し、その魅力を伝える。自分たちの考えをまとめたして、工夫を表現することができる。
	11	「われらが未来へ繋ぐ～松前の音色を奏でshow～」 松前紙風船囃子 鑑賞 松前紙風船囃子体験活動「桜狩り」	イ これまで学んできた事項を踏まえて、松前の伝統文化保存に向けて行うべきことを主体的に判断し、行動に移すことができるようになる。	イ 松前紙風船囃子の演奏方法についての理解を深め、地域の町々と協力して演奏練習を行う。	ウ 松前紙風船囃子「桜狩り」を演奏できるようにする。	ウ 和楽器を用いて、現代の松前に生きる自分たちの思いを工夫して表現している。	ウ 他者との合同演奏や合同練習を行い、松前紙風船囃子「桜狩り」を演奏することができる。	
	12	松前紙風船囃子体験活動「梅ヶ枝」	ア 松前紙風船囃子の演奏方法についての理解を深め、地域の町々と協力して演奏練習を行う。	ア 松前紙風船囃子「梅ヶ枝」を演奏できるようにする。	ア 和楽器を用いて、現代の松前に生きる自分たちの思いを表現する。	ア 和楽器を用いて、現代の松前に生きる自分たちの思いを表現する。	ア 他者との合同演奏や練習を行い、松前紙風船囃子「梅ヶ枝」を演奏することができる。	
	1	松前紙風船囃子体験活動「梅ヶ枝」	ア 1年間学んできた内容を体験した事項をまとめ、歴史的過程と地域の特徴について理解と認識を深め、それらを育んできた松前町民としての自覚と責任を養うとともに、伝統文化保存の観点から松前町の発展のために主体的に松前町の発展に寄与する態度を身に付ける。	ア 松前紙風船囃子の演奏方法についての理解を深め、地域の町々と協力して演奏練習を行う。	ア 松前紙風船囃子「梅ヶ枝」を演奏できるようにする。	ア 和楽器を用いて、現代の松前に生きる自分たちの思いを表現する。	ア 他者との合同演奏や練習を行い、松前紙風船囃子「梅ヶ枝」を演奏することができる。	
	2	松前紙風船囃子 演奏発表会	ア 1年間学んできた内容を体験した事項を総合的にまとめ、校内外の行事の前で発表会を行う。	ア これまで学習してきた内容や体験した事項をまとめ、歴史的過程と地域の特徴について理解と認識を深め、それらを育んできた松前町民としての自覚と責任を養うとともに、伝統文化保存の観点から松前町の発展のために主体的に松前町の発展に寄与する態度を身に付ける。	ア 一年間を通して活動振り返り、多面的・多角的視野から、これからの松前町の発展のために主体的な行動をとることができる。 イ 自らのみならず、地域の町や小中学生などの校内外の他者と協力し、松前町の発展と伝統文化・郷土芸能保存に寄与する態度を身に付けている。	ア 松前町の伝統文化の多様性・複合性を考察することによって、歴史的思考力を身に付けている。 イ 松前の伝統文化の多様性・複合性を考察することによって、歴史的思考力を身に付けている。	ア 一年間の活動に用いた資料を活用し、校内外への発信のため創意工夫のある資料を作り上げることができる。	
	3	ふりかえり						

松前学Ⅱ

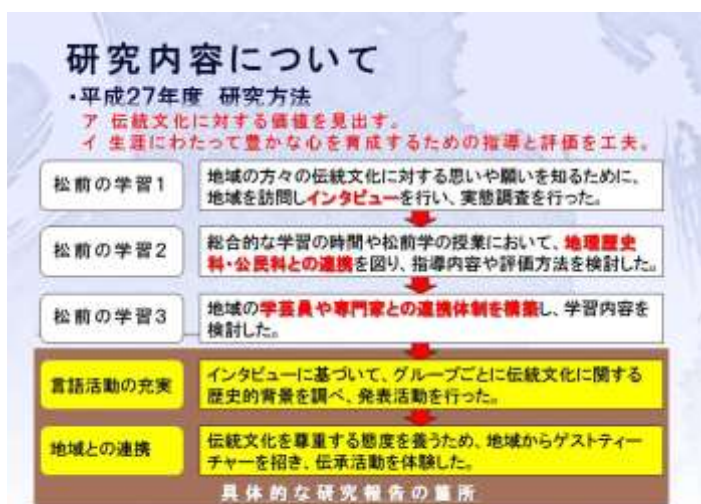
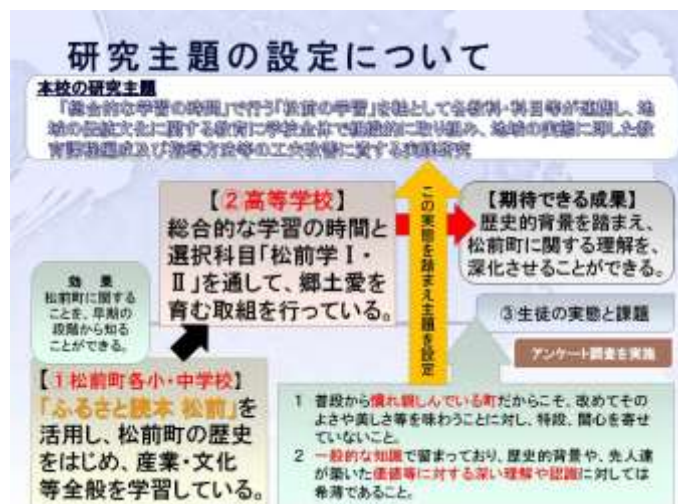
学期	月	単元名	学習内容・活動	到達目標	評 価 規 準			
					関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・技能・表現	知識・理解
前期	4	地域考察（１） ・地域巡視 ・観光体験	・松前町の魅力や実態について考察し、発表する。 ・地域住民としてだけでなく、実態に関わる方や、第三者からみた松前町の実態に迫る。（社、英）	現在の松前の実態を踏まえつつ、さまざまな観点から自分たちの住んでいる町について理解を深める。	自分が住んでいる松前町は異なる立場によってどのように見えているのか、関心をもち主体的に探究し課題を見つめようとしている。	主観的・客観的に松前町をとらえることで、今後ふるさとのために何をすべきか考察している。	松前町のホームページや文庫、地域の住民の方や産業に携わる人、観光客の声を参考にし、主体的に考察し、まとめたたり発表したりしている。	異なる視点からとらえた松前町の実態を総合的に理解している。
	5	松前の文化に触れよう（１） ・松前紙風船ばやし体験① ・松前の紙風船（理）	・松前町の郷土芸能の歴史に触れ、実態に体験する。 ・学校周辺の自然に触れ松前の自然について学ぶ。 ・二つの探検、塩漬け（理・家）	松前の郷土芸能について理解し、実態に体験を学ぶ。 松前に生息する植物の活用方法について理解する。	ふだん触れる機会が少ない身近な風景や自然、芸能に対して興味、関心を持ち積極的に観察している。	松前町の郷土芸能が生まれた理由や自然環境の特徴を、気候条件や地理的・歴史的特性と関連付けながら考察している。	グストティーチャーの講話や取り扱った資料をうまく活用しながら、松前の芸能と自然について適切に理解しを深めようとしている。	松前に残る郷土芸能や、生息する様々な植物の生態を理解している。
	6	松前の文化に触れよう（２） ・松前紙風船ばやし体験② ・民話、方言学習	・松前紙風船ばよしの練習 ・松前にまつわる民話を学び、方言や地域の特徴に気付く。（社、国）	グストティーチャーによる教養を受け、実態に昔話や方言、郷土芸能に触れることで地域の特徴をとらえる。	グストティーチャーの教養を受け、伝統文化を守り受け継ぐ意義を理解しようとしている。	北前船交易や、松前藩の歴史を踏まえ、伝統文化・芸能が成立してきた背景を考察する。	グストティーチャーの講話や町史・文化財を活用し、伝統文化・芸能が成立した様子を探推している。	松前に数多くのこる伝統を守り、継続していくことの意義を理解している。
	7	松前の文化に触れよう（３） ・松前紙風船ばやし体験③ ・紙芝居体験	・紙芝居体験、披露 ・前期の学習の成果を市内の小中学生へ発表する。（社、国、商）	これまでに学習した町内の芸能・文化を、子供たちに伝えるようわかりやすく発表することができる。	松前の伝説や昔話、芸能に興味を持ち積極的に小中学生へ伝えようとしている。	自分たちの活動が、子供たちの郷土への関心を深めるきっかけとなることを理解している。	小中学生に向けた表現方法を考え、オリジナルティのある発表ができる。	昔話や伝説、芸能がなぜ今日まで守り伝えられているのか自分なりの考えを構築している。
	8	プレゼン発表	前期の学習を振り返り、自分にとっての《松前町》とは何かを考察し、発表する。（国、商）	前期の学習を振り返り、自分にとっての《松前町》とは何かを考察し、発表することができ、 イ 松前町の発展と伝統文化・郷土芸能保存に寄与する態度を身に付けている。	さまざまな体験を通して自分にとっての《松前町》とは何かを考えを深めようとしている。	発表テーマに沿った内容を考察し、他者の意見を取り入れてより深めようとしている。	パワーポイントを用いて、他者に分かりやすい発表資料作成の工夫ができる。	設定したテーマについて多面的・多角的に考察し、自分なりの考えを構築している。
	9							
後期	10	松前の郷土料理（２） 地域考察（２）	松前の資源に注目し、先人達が守り伝えてきた技術を知る。 ・イカ飯づくり（家） ・木工体験（理）	調理実習や体験活動を通して松前の人々の風習や生活習慣を理解する。	地域にある資源・食材を知り、郷土料理の味わいや資源の活用方法を知らうとしている。	松前にはどのような郷土料理や資源があるのか、またなぜそのように活用されるようになったのかを考察している。	グストティーチャーの指導を受け、安全に歴史的な体験活動に参加している。	交易によって繁栄してきた松前藩には本州から伝わった様々な文化が存在し工夫しつつ、現在に伝えられていることを理解している。
	11	卒業制作	・1年の学習を振り返りテーマを設定し振り返り、発表資料作成して市内の小中学生を対象に発表を行う。（社・国） ・松前町祝賀し編づくり（家）	これまでの学習を通じて得た知識や思いをもとに、次世代を担う小中学生に郷土への考えを伝えることができる。	これまでの学習を振り返り、小中学生へ伝えたいテーマをグループで的確に設定することができる。	自分たちの活動が、子供たちの郷土への関心を深めるきっかけとなることを理解している。	各グループで設定したテーマの適切な発表方法を考え、さらに前回実施した発表の反省を生かすことができる。	設定したテーマについて多面的・多角的に考察し、研究し、考えをまとめている。
	12	松前の郷土料理（３）						

・実践と評価（工夫・改善）



1 小・中の「ふるさと学習」を土台。

2 段階的な学習プロセスをもって、学びを進めた。



3 公開授業時の場面

地域の方々からのインタビュー取材をもとに、町の現状を踏まえた発表活動を行った。グループで協議し合い、地域の伝統文化【松前祇園ばやし】を習得することで方向性を確定させた。

研究内容について
・実践と評価(工夫・改善)

3つの区分に分かれ、夏休みの自由研究としてインタビュー活動を行い、松前の伝統文化について、地域の方々から取材を行う。また、調査結果の整理、発表の準備などについて、取材を行った。

生徒のプレゼン活動では、

インタビューを基に、調査、評価を行い、方向性を決定した。

1 地元をよさき再認識できたこと……………(インタビュー者と調査との違い)
2 若者の伝統文化への参加は、町に活力を与えてくれること……………(地域の方々の願い)
3 地域の伝統文化に対する認識と理解、その価値を知ってほしい……………(新しい発見)
4 地域の「祭り」に参加してほしい……………(地域の方々の願い)アイデンティティー
5 松前に伝わる「松前祇園ばやし」が、今後受け継がれていくのか疑問に感じたこと……………(地域で守り続けている伝統文化の価値と願いを認識)

各組で、①～⑤について話し合い、認識を新たにするとともに、自分達に何ができるか模索しながら、地域の伝統文化の伝承について、様々な意見や方法が提示された。

① 町で話合った手立てを他の町に説明し、一緒に課題の解決方法を考える活動を行ったことで、全体で共有することの大切さを感じることができた。
② 地域の願いを全体で共有し課題を乗り越えるためのアイデアを出し合い、方向性を導き出すことができた。

1 地域の祭りに参加しよう
2 松前祇園ばやしを習得しよう

4 平成28年 9月9日 【全道公開授業】の様子
地域の方々からのインタビュー調査を踏まえて、自分達の認識と比較させながら、地域の実態についてまとめ発表を行った

・実践と評価(工夫・改善)



・実践と評価(工夫・改善)



5 地域のゲストティーチャーを招き、祇園ばやしの指導を受けている場面

・実践と評価(工夫・改善)



・実践と評価(工夫・改善)



具体的な研究活動（H27学習プロセス）



6 学期末に行った、振りかえりシートについて（生徒の変容過程）

1、これまで松前学Ⅰを受講して、松前について新しくわかったことは何ですか。

道南には食宝と呼ばれる多くの民住地があって、全部で12件あってそれと
道南十二食宝と呼ばれているものがある。松前に住んでいた人々はアイヌと交易を
もちあけて、和食から海産物の特産品を本州に送り米をもらっていたということ。

2、松前学Ⅰを受講して、松前町に対するあなたの思いは、これまでと比べてどう変わりましたか。

今までは、松前は子供が少なく、お祭施設がまったく無くてつまらない町だと思っていた。
けれど松前学をやっていると松前にはたくさんのおもしろい歴史があることに気付いた。
歴史がある＝そこを学ぶと楽しい！
伝統文化の歴史も学んで、どんどん参加してみたいと思う。古くからあるもの、
いつまでも変わらぬものを残す。
見守るべきもの！

3、調べ学習やインタビュー調査を通じて、自分たちの役割がどのようなものであると感じましたか。

松前町の活性化として、観光客を増やすのも良いが、松前町に住みたいと思わせるように
考える。伝統文化の継承者も程々いない状態だから自分達だけでなく、小・中学生にも
どんどん参加させるというのも大事だと思う。周囲を新町エキスパートも持っているのは、
間違いない。高校まで、
どんな活動もプロジェクト成功させよう

1、これまで松前学Ⅰを受講して、松前について新しくわかったことは何ですか。

松前には深い歴史があるわかった。私の住んでいる地域の「大森」の熊野神社の「名前」の意味がわかって、深いなと思いました。

2、松前学Ⅰを受講して、松前町に対するあなたの思いは、これまでと比べてどう変わりましたか。

今の松前は「お城が小さい」伝統系能がある。1日の串が考えていって、
注、換米をしたら、松前には1日1人歴史がある。色んな思いがある。やっぱり松
前です。って思うし、改めて、松前は落着く。思っています。天にちの思いが
今の松前につた。2000年か。

3、調べ学習やインタビュー調査を通じて、自分たちの役割がどのようなものであると感じましたか。

やはり、1人1人大切だ。と思うのは昔から伝えている伝統文化を
残す。これバ。思っています。
地元の方々の力強いと
一致。2000年か。2000年か。
一緒にやろう!

1、これまで松前学Ⅰを受講して、松前について新しくわかったことは何ですか。

文化が色々あること。北前船が、物だけでなく文化も運んでいたこと。
祇園祭があったり、かどろがあったりするけど、人がいないこと、後でって人が
必要なこと。

2、松前学Ⅰを受講して、松前町に対するあなたの思いは、これまでと比べてどう変わりましたか。

今までは、松前 = 何もない。思っていたけど、京都とかかかちりが
あたり、混ざりに混ざれた文化があって、何もないわけでは
ないんだな。と思いました。
すこしづつに思っています。
かかちりの書いている通り、松前の文化は
色んな地域の、歴史や文化が重なっている。

3、調べ学習やインタビュー調査を通じて、自分たちの役割がどのようなものであると感じましたか。

まずは、知ること。何も知らないのに、せんでんとかはできないと
思うので。知れ上で、自分達が実際にやってみたり、他の人に教え
たりすればいいと思う。
そっか、先ずは知ること!

1、これまで松前学Ⅰを受講して、松前について新しくわかったことは何ですか。

松前には、祇園囃子や神楽などといった伝統芸能があり
今でも活動しているが、後継者不足だということ。
松前中の旧町名や自分の地域に伝わる伝説など。

2、松前学Ⅰを受講して、松前町に対するあなたの思いは、これまでと比べてどう変わりましたか。

受講する前は、桜さくらだな、マフロといえるくらいしか思っていなかったが、
それは当たり前ではない、すごいことなんだと気付いた。松前は人が少ないが、
今年再訪してまた松前とって、松前はすごいところだ！
今からでも私たち^{今年再訪してまた松前とって、松前はすごいところだ！}が町を活性化させる努力を積極的にすべきと思い始めました。
<sup>身軽な場所だからと、見込みが薄いと
思っていたが、</sup>

3、調べ学習やインタビュー調査を通じて、自分たちの役割がどのようなものであると感じましたか。

私たち高校生はある意味松前の若者のトップなので、そんな私たちが町を
活性化させるために授業で松前の芸能・文化を学び、その学んだことを
実際に行動し、町に貢献すべきと思う。これはまず小・中学生や松前の
良さを実感していない人たちに広めていくべきと感じた。

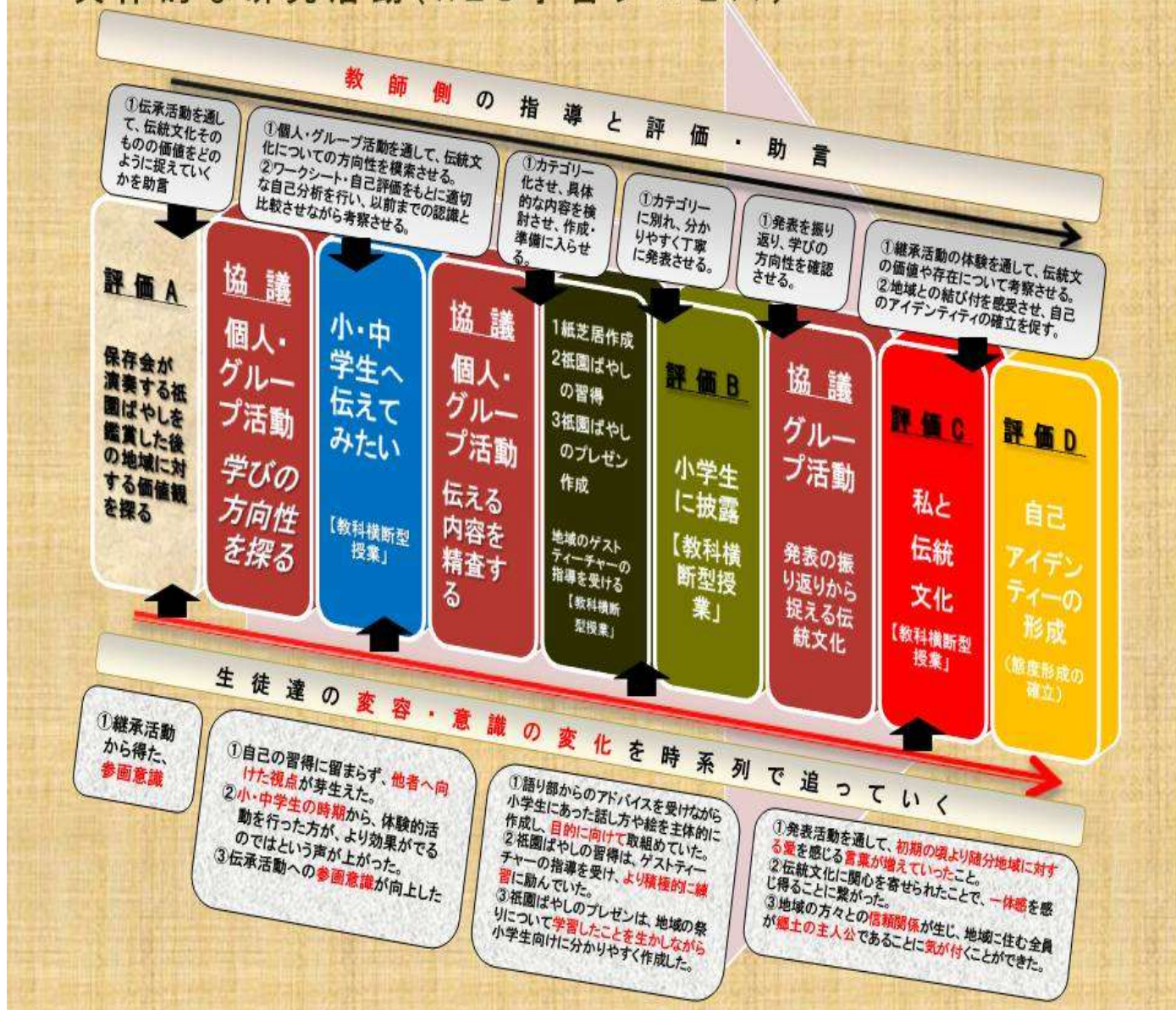
7 まとめ

これらの学習過程を踏まえ、生徒の変容を時系列で追ってきた。伝統文化教育をはじめる前は、地域の伝統文化については、関心が低かった生徒達も、段階的に学びを深めていったことで、地域の良さや地域の方々の思いを感受できるようになった。生徒達による地域の情報収集が大きなキーワードとなった。また、他教科の連携を生かし幅広く学習を深められたことも、地域に対する関心の深さにも繋がったと感じている。

この経験から、自ら進んで地域のために「何か出来ることはないか」という視点が共通の理解となり、松前祇園ばやしの習得へと発展を遂げることとなった。

VI. 平成28年度 国立教育政策研究所 教育課程研究センター関係指定事業研究協議会
発表概要

・具体的な研究活動(H28学習プロセス)



平成28年度 教育課程研究指定校事業

研究協議会

【伝統文化教育】

【研究課題】
学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

(1)学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

北海道松前高等学校
教諭 天満谷 貴之



1 伝統と文化に対する定義を再確認。

2 習得した継承活動を、個人・グループで協議し合い、その結果小学生へ伝えることで学びの方向性を設定した。



3 「松前祇園ばやし」の班を作り、準備を重ね小学生へ伝承した。

4 「紙芝居」の班を作り、準備を重ね小学生へ伝承した。



5 「松前の祇園ばやしに関するプレゼン」班を作り、準備を重ね伝承した。

6 3つのカテゴリーについて、各班それぞれ成果・課題について発表。



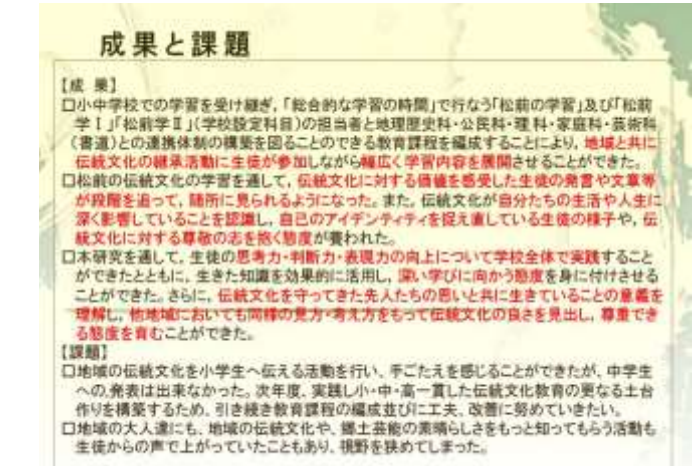
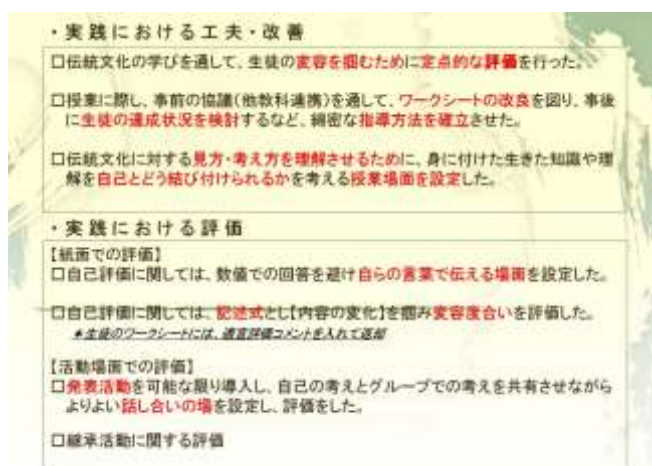
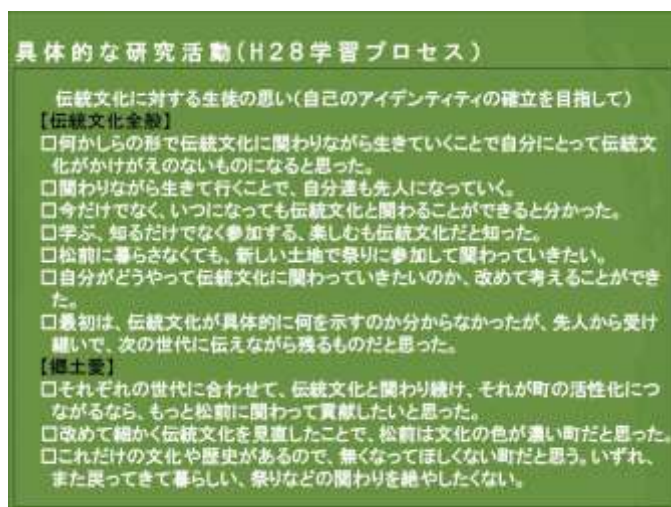
7 自分達の伝承活動に対する見方・考え方を通して「伝える」とこの意義について捉えなおしたことを丁寧発表した。

8 自分達の地域に対する伝統文化への価値と他地域（将来）を見通した際の伝統文化との関わり方・繋がり方の2つを踏まえ伝統文化に対する態度形成の確立に迫った。



9 2年間の取組を通して、伝統文化全般に対する価値を見出し、更には時間の中で捉える先人達との共有した「考え方」が生まれた。
また、郷土愛に対しては、地域への愛着や故郷としての存在意義を感受している言葉が多く生まれた。

10 体系的な学びを実現するために、段階的に評価を設定し、その都度生徒の変容を見て行くことで、幅広い視点で捉える力を身に付けることができた。
生徒にとって、それは自信へと変容を遂げた。



VII 成果のまとめ（研究成果・課題・今後の展望等）

2年間の「伝統文化教育」の学習を通して、時系列で捉える生徒の変容過程に焦点化して研究を進めてきた。その際、体系的な学習プロセスを構築しつつ、本校研究主題の実現に向け教育課程の工夫・改善を図り、段階的な評価を行い生徒の変容過程を見てきた。

伝統文化教育の学びは、本来、人を育てることにある。伝統文化を学ぶことは、郷土と自分との繋がりが、先人達と自分との繋がりを感じ取れる両面がある。その学びを通して、過去（先人達）と現在（自分）、未来（次世代）という時間の中に自分が存在していることを意識づけることが大切であると感じる。

このことから、本校では単に伝統文化全般の活動や技能習得に限定することなく、対話的な学び、主体的な学び、深い学びの3サイクルが常に往還しながら学習を展開させていけたことが、大きな成果だと確信している。研究当初は、地域に対する思いは悲観的に捉えていた生徒も、体験的活動、個人思考、グループ活動、伝える（小学生）活動等、教科連携を有効に活用して得た生きた知識が身に付くことで、郷土に対する価値を深め、更には伝統文化全般に対する見方、考え方を通して、自己アイデンティティーの形成へと結び付けられたことも、成果として上げられる。

以下は、本校の総合的な学習の時間（松前の学習）と学校設定科目（松前学Ⅰ・Ⅱ）の学びを通しての最終評価シートの一部を紹介し、生徒の思いが詰まった感想をもって、本校の2年間の学習成果としたい。

また、本校の課題については、伝える活動を今後、中学校まで幅を広げ、小・中・高一貫した伝統文化教育の充実・発展に寄与していきたい。その為に、2年間の研究過程を土台とし、よりよい教育課程の編成・充実を図っていきたいと思っている。

【2年間の学びを通しての生徒の感想】

- 今年度の松前学Ⅱでは、「伝統文化を次世代へ伝える」というテーマのもと活動をしてきました。1年間の活動を終えて、「伝統文化」や「松前」について、どんな考えを持つようになったり、気持ちの変化があったでしょうか。
理由を具体的に述べながら、ふり返ってまとめてみましょう。

松前に関心がもてるようになった。3年になつて進路が忙い中 正直上手くやつて行けるかなと不安だった。地域とほとんど関わりがなくて育ってきた ことが寂しかったけれど今回1年間の活動を通じて松前の人になれた 気がする。中でも興味ある文化について深く知り、体験することができて新しい考えも できた。それは、自分のライフスタイルにあった方法で伝統芸能を残していくということ。色んな 方法で伝統文化に関わって来て既存の方法だけでなく自由な発想で地域 に貢献できることが自信になった。特に郷土料理や民話は大きな準備 も必要ないし、気軽に集めると思った。伝統文化をどう伝えるかを感じていた が学ぼうという姿勢一つで簡単に関われるようになることが最終は 自分自身だったと思った。

- 今年度の松前学Ⅱでは、「伝統文化を次世代へ伝える」というテーマのもと活動をしてきました。1年間の活動を終えて、「伝統文化」や「松前」について、どんな考えを持つようになったり、気持ちの変化があったでしょうか。
理由を具体的に述べながら、ふり返ってまとめてみましょう。

僕は、最初松前の伝統文化や歴史について、
まったく考えたことがありませんでした。しかし、松前城を
見に行ったり、ニオを採集したりしていくうちに、もっと松前の
ことを知りたいと思うようになってきました。そして、
松前の歴史、伝統文化を小学生に伝える準備を進める過程で、
「自分が住んでいる町のことを知ることは、とても大切なことなんだ
な」と気がつきました。春から松前を離れ、札幌に住み
ますが、札幌の歴史なども勉強してみたいと思いました。

- 今年度の松前学Ⅱでは、「伝統文化を次世代へ伝える」というテーマのもと活動をしてきました。1年間の活動を終えて、「伝統文化」や「松前」について、どんな考えを持つようになったり、気持ちの変化があったでしょうか。
理由を具体的に述べながら、ふり返ってまとめてみましょう。

1年間の活動を終えて、ふり返ってみると、最初よりもより
かなり伝統文化に対する気持ちが変わったと思います。
はじめは発表や練習などがあり、あまりやる気がありませんでし
たが、皆と協力し練習して、本番をむかえ発表し、相手が
笑顔になったり、すぐ真似に聞いたりしてくれたりしたので
いつかおにぎりをあげたいなと思ってました。松前学にもおかげで
自分や他から教えてもらったことは、周囲の人に伝えていこう
と思いました。私もゆくゆく松前に残る人なので
皆よりもっと松前のことを知り、松前を離れても
周りの人達に伝えていき、松前の認知度を少しでも
上げることに貢献します。

- 今年度の松前学Ⅱでは、「伝統文化を次世代へ伝える」というテーマのもと活動をしてきました。1年間の活動を終えて、「伝統文化」や「松前」について、どんな考えを持つようになったり、気持ちの変化があったのでしょうか。
理由を具体的に述べながら、ふり返ってまとめてみましょう。

松前の伝統文化はやっぱりなくなっちゃいけないものだと思う。
僕たちがいろいろな小学校に行き、出前授業を行って、いろ
んな先生や生徒、新聞記者の方などたくさん興味をもて
くれて、松前の伝統文化にまったく興味がないわけでは
ないんだと感じた。僕たちはほんとに松前を出て行って
社会人になっていくけど、いつか松前に帰ってきてやっぱり
松前がふるさとでよかったなと思う町になってほしいし、
僕たちが伝えたことを今の小学生たちがまた、学んで次
の世代の子たちにも伝えていってほしいと思いました。

今後に向けて

口本研究を通して、地域の伝統文化に対する認識の変容を捉えることができた。2カ年の研究で終えることなく、この学びが今後の土台となり工夫・改善をしながらより良い教育課程の実現に向けて努めたい。また、本研究成果及び今後の取組についてホームページ等に公表するとともに、各種研究協議会等において積極的に発表するなど成果及び取組の普及を図りたい。



末尾になりますが、本校の伝統文化教育の充実・発展にお力添えを頂きました、松前町教育委員会をはじめ、滋賀大学、長浜市曳山博物館・大津祭曳山展示館・近江八幡市役所、福島県伊達市教育委員会、NPO法人梁川町歴史文化財保存協会八巻善兵衛氏、東北学院大学名誉教授、榎森 進先生方々の多大なる尽力を頂きましたこと、改めて深く御礼申し上げます。

今後とも、本校の発展のため、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ、2カ年の研究報告とさせていただきます。